

児童生徒の資質・能力の育成に向けた授業づくり

～小・中学校教育課程研究集会（令和3年度～令和7年度）の実践から～

令和8（2026）年8月 栃木県教育委員会事務局義務教育課



こんな指導や学習評価になっていませんか……？

- ▲ 学習指導要領の指導事項と学習内容や指導内容がずれている。
- ▲ 教科書の内容が理解できたかどうかのみの評価になっている。
- ▲ 本時の「おおむね満足できる状況」（B）の評価規準が具体的ではない。
- ▲ 「努力を要する状況」（C）の児童生徒に対する指導の手立てが想定されていない。

令和3年度から実施した小・中学校教育課程研究集会の事例から、『資質・能力の育成に向けた授業づくり』のポイントを整理しました。日々の授業づくりにお役立ていただければ幸いです。

「資質・能力ベースの学び」～何ができるようになるか～

平成29年に改訂された学習指導要領では、「何を学ぶか」という取り扱う指導事項だけでなく、その内容を学ぶことで「何ができるようになるか」という資質・能力の育成を重視することが示されています。児童生徒に対して、「どのような資質・能力の育成を目指すのか」を指導のねらいとしていくことは、ますます重要になっています。

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

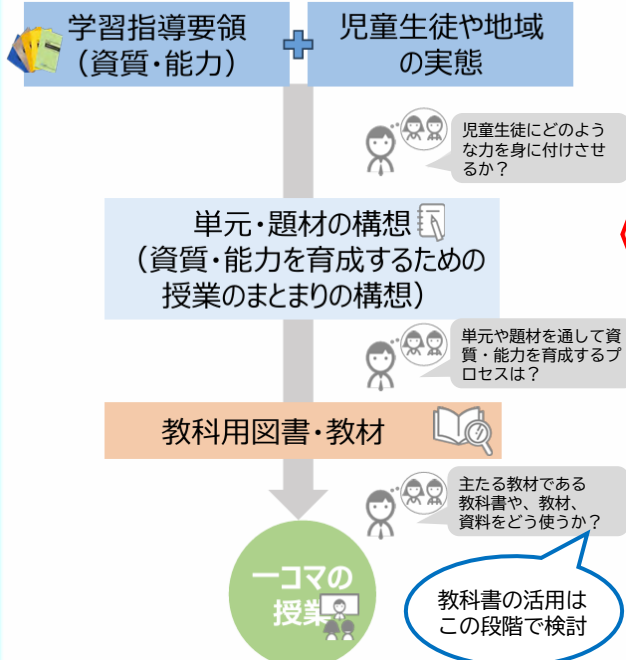
何ができるようになるか

資質・能力ベースとした授業づくりで大切なことは、どのようなことですか？

学習指導要領を出発点とした児童生徒の視点に立った学び

教師は育成を目指す資質・能力を整理した学習指導要領を踏まえ、全ての児童生徒に育成を目指す資質・能力を単元や題材などの内容や時間の一定のまとまりの目標として設定した上で、学習活動を計画していきます。教師は誰一人取り残されることなく、児童生徒に資質・能力を育成できるよう、教材・発問や学習環境の工夫といった様々な手立てを効果的に準備し、単元を通して資質・能力が育成できるようにします。

資質・能力を出発点とした授業づくりのイメージ

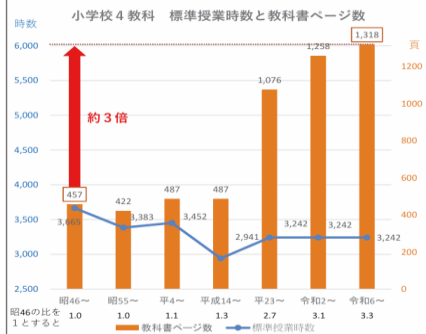


教科書の内容を全て教えていると時間は足りない！

「教科書“を”教える」から「教科書“で”教える」へ

児童生徒の実態に応じ、題材や場面を検討するなどして、資質・能力を育成する。

教科書のページ数は増えている



※ 文部科学省サポートマガジン「みるみる」をもとに作成

※ 中央教育審議会教育課程特別部会「論点整理」参考資料集より

単元を通じた資質・能力の育成に向けて重要なことは、どのようなことですか？

児童生徒の資質・能力を育成するための学習評価の在り方

育成を目指す資質・能力を児童生徒に育むためには、指導した内容に対して、評価規準を踏まえて評価するという、指導と評価の一体化が重要です。

授業中は、目標を踏まえて設定した評価規準に照らして児童生徒の学習状況を把握するなど、児童生徒に関わりながら評価をしていきます。

授業を構想する上では、各教科等の特性を踏まえつつ、児童生徒の学びの姿を具体的に想定し、いつ、どのような方法で評価するのかについて、計画を立てます。

授業実施後は、評価を踏まえて、自分自身の指導の在り方について振り返り、改善することも大切です。

ポイント

◎ 評価したことを指導に生かしましょう

【指導に生かす評価】の充実

目標の実現を目指した指導を意識する
自身の指導を振り返り、改善する

◎ 指導した結果を記録に残しましょう

【記録に残す評価】の精選

指導した結果を総括して評定を作成する

評価規準の作成 ～児童生徒の多様な学びの姿を言葉で分かりやすく表現する～

○ 「おおむね満足できる状況」（B）の想定

単元指導計画で定めた資質・能力の育成状況について、児童生徒の「おおむね満足できる」状況を具体的に説明できるようにします。何がどのようにできるようになっているかを想定することは、よりよい指導の手立てを考え上で重要です。



資質・能力の更なる育成のために ～全ての児童生徒の可能性を開花させるために～

○ 「努力を要する状況」（C）の指導の手立ての想定

全ての児童生徒が「おおむね満足できる」状況となるために、児童生徒のつまづきを想定し、指導の手立てを考えておくことで、授業中の効果的な指導につながります。

○ 「十分満足できる状況」（A）の想定

評価規準に照らし、児童生徒の学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合、多様な姿が想定されます。教師があらかじめ想定しておくと共に、想定していた以上の質的な高まりや深まりが見られた場合には、積極的に評価するようにしましょう。

○ 学年の先生方や教科の先生と情報を共有し、組織的かつ計画的に取り組むことが大切です。例えば、実践事例を蓄積し共有したり、評価結果についての検討を通じて学習評価の力量を向上せたりするような取組が考えられます。

授業改善のためのチェックポイント

- ① 指導事項の内容について、学習指導要領解説を読んで理解を深めている
- ② 単元を通して児童生徒の資質・能力を育成できるよう指導計画を作成している
→ 単元の学びで、「何ができるようになるか」が明確になっている
- ③ 評価規準は、単元の目標を踏まえて具体的に設定している
→ 児童生徒の「おおむね満足できる状況」（B）を分かりやすく表現する
- ④ 全ての児童生徒の資質・能力が育成できるよう評価を指導に生かしている

今後、授業改善のためのチェックポイントを踏まえた、各教科の実践例を紹介する予定です。

児童生徒一人一人の資質・能力を伸ばすためには、日々の授業の中での教師の見取りと評価は欠かせません。そのためには、単元の学習を通して「何ができるようになるか」を明確にし、1時間ごとの学習を計画する必要があります。

さらに、教師は、児童生徒の授業の様子や成果物で学びの状況を丁寧に把握し、児童生徒に適切なフィードバックを行うことで、児童生徒の資質・能力の効果的な育成につながります。

本資料を活用し、児童生徒の学びを支える授業づくりについて、日々の取組を振り返っていただければ幸いです。